

1 めざす学校像

1. 中等部創立 28 年、高等学校創立 41 年の歴史と伝統を受け継ぎ、「建学の精神」のもと、将来我が国の有益な社会の形成者、また、世界にはばたくグローバルリーダーを輩出する。

2. 生徒一人ひとりを大切にし、学問に対する興味・関心を深める授業を行い、生き生きと学ぶ喜びを知ることのできる教育を進める。

3. 生徒が自主的・計画的・継続的に学習を進め、「高いレベルの文武両道」の文化を根付かせ、SDGsの視点を踏まえ、学校行事や委員会・クラブ活動・ボランティア活動などへ積極的に参加し、自らの意志と努力で中学高校生活の創造を目指す。

4. 生徒の能力・適性を伸ばし、進路選択を支援するとともに、教師自身が課題に取り組み、指導力・専門的知識の向上に努める。

2 中期的目標

- (1) 学習指導の強化と改善

文武両道の進学校として成果を上げるためには、生徒が目標に向かって主体的・意欲的に取り組み、学習の理解度・達成度を高めることが重要となる。そのため全教員は教員主導型から学習者中心型への授業改善を進めるとともに上級学校（高校・大学）の入試問題を研究・熟知し、より効果的な授業の提供に努める。

① 研究授業・公開授業・授業見学を活性化し、学校全体の授業力向上を図る。（研究部）

② 探究授業の充実に向けて、他校訪問などを通じて研究を進め、活動のレベルアップに努める。（探究科）

③ 高大接続改革に関する最新の情報を常に把握し、校内の対応を具体化する。特に大学入学共通テストの今後の方向性についての情報収集を行い教職員・生徒・保護者への十分な情報提供を行うとともに、校内での指導の徹底を図る。（進路指導部）

④ 各教科等で観点別に「目標に準拠した評価」が適正に実施されるよう、シラバスに評価計画を実装し、シラバスを拠り所とする学習指導と学習評価を進める。評価計画とは、評価項目とそれぞれの項目について観点ごとの評価規準・基準（ルーブリック）を定めることである。（教科・教務部）

⑤ I C Tを活用した授業のさらなる充実を図るために、校外研修会への参加とフィードバック、学習会等の研修を実施し、授業改善に取り組む。また、生徒の情報モラルの醸成に努める。

（情報管理室・情報科・生徒指導部）

⑥ 学園「英語力アップ委員会」の方針に基づき、学校を挙げて英語教育に取り組む。英語教育には、一定の目標値（資格やスコア取得）を設けて達成する。また、大学教育との連続性も視野に入れて、授業や教授法についても検討する。（英語力アップ委員会・英語科）

⑦ 学園「理科（算数・数学）大好き生徒の育成」の方針に基づき、学校を上げて理科（数学）教育に取り組み、理数系付属推薦希望者の増加に努める。

⑧ 大学入学共通テストにおける出題傾向を十分に研究し、思考力・判断力・表現力を養成するため、低学年次からの指導に反映する。英語は 4 技能養成の方向性は維持し、特にスピーキングとライティングの技能を伸ばすための創意工夫を行い、G T E Cでその効果を検証する。（教科）
- (2) 進学実績の伸長

① 授業改善と生徒一人ひとりのレベルに合った授業の展開を通じて、生徒の学力伸長を図り、進路実績の向上へと繋げる。大学進学における達成に全力を挙げる。特に総合進学コースにおいては摂神追桃以上のレベルの大学への進学保証を実現する。

② 東海大学への進学者の増加を図るため、早い段階から教育の連続性を見据えた接続教育の取り組みを実施する。大学の特徴や良さを理解させ、各学部への入学を見越した進学指導を行う。

③ 毎年のように変化する大学の入試情報を正確迅速に把握し、教員及び生徒に伝達できる仕組みを整える。また、大学入学共通テスト、国公立大学二次試験及び難関私立大学入試に対応した組織的かつ計画的な進学指導を実施する。
- (3) 高いレベルのスポーツ・文化活動の維持

① クラブ活動、学校行事等の意義を十分踏まえ、予算・施設の効率的な活用、人的措置等を考慮するとともに、学業と両立しながら活動の活性化を図る。（生徒指導部）

② 文化的な活動の振興に努め、外部への積極的発信と星河祭の質的向上を図る。（生徒指導部）
- (4) SDGs の視点からのローカルコミュニティとの連携

生徒会・GAfSS・SDGs 委員を中心として、地域の持続可能な活動を支援するために積極的にボランティア等に参加し、学校内で SDGs の達成に向けてリーダーシップをもって行動できる生徒を育てる。（生徒）
- (5) 生徒募集事業と広報拡張のための各種事業の充実（P R）

生徒の定数確保に向け、応募等の広域化を推進するため、地域・保護者等からの本校の教育活動に対する意見を踏まえ、生徒募集等の組織的な取り組みを行う。

① 入試イベント・小中学校訪問活動の充実、塾・予備校などの各種学校への情報の発信方法の改善、塾・予備校、近隣地域小中学校と十分な連携をとる。

② 入学者選抜結果の分析・入学者の追跡調査を踏まえ、組織的に入学者選抜方法の工夫改善に努める。

③ ホームページ等においてよりの確な情報発信に努め、組織的な広報活動を充実させる。

④ 保護者や小中学生を対象とした公開授業、中学生の体験授業を実施する。

⑤ 中等部受験者確保のため、早期学校説明会（学校紹介）の実施や塾訪問のあり方を見直し、全教職員によるより積極的な募集活動を展開する。
- (6) 環境・安全・健康に配慮した学校づくり（健康推進室・安全衛生委員会）

生徒・教職員の心身の健康を維持・促進させるため、環境の整備を図る。

① 防災・防犯、健康づくりに対する行動計画を策定し、実施状況の点検・評価（学校評価）を行う。

② 教育活動における事故を未然に防ぐために、細心の注意を払う。万一事故が発生した場合は、文科省「学校事故対応に関する指針」に基づき、適切に対応する。

③ 教職員と生徒との間のコミュニケーションを密にし、カウンセラーなど関係機関との連携を図り、安心して学校生活が送れるようにする。

④ 教職員の健康に留意した学校づくりを目指す。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】
中等部・高等学校生徒を対象にそれぞれ 36・40 項目の学校評価アンケートを実施した。また、中等部保護者・高等学校保護者を対象には 27 項目の評価アンケートをそれぞれ実施した。更に中等部教職員・高等学校教職員対象にはそれぞれ 45・49 の項目のアンケートを実施した。以下は、上記中間目標に符合する質問項目とその評価平均点(最高点 5.0)推移を示したものである。()内の数字は 2023 年度から 2024 年度への評点の変化を示している。

自己評価アンケートの結果と分析[生徒・保護者・教職員対象:令和6年 12月実施]	学校評価委員会からの意見
(1)学習指導における本質をつく授業の創造と一層の充実改善について ○生徒 ・(中)授業に対して意欲的に取り組んでいる。(2023:4.2→4.3) 授業を通して学力が向上している。(4.1→4.1) 学習面について、よく指導・サポートされている。(3.9→3.9) ・(高)授業に対して意欲的に取り組んでいる。(4.2→4.3) 授業を通して学力が向上している。(4.0→4.0) 学習面について、よく指導・サポートされている。(4.0→4.0) ○保護者 ・(中)(高)子どもは、授業を通して学力が向上している。(中 3.4→3.6)(高 3.5→3.5) ○教職員 ・(中) 教員は、授業に関して創意工夫を行っている。(4.0→3.9) ・(高) 教員は、生徒の学力向上の為の工夫・努力を行っている。(3.8→4.1) 【分析】生徒は中高共に授業や家庭学習について意欲的に取り組んでおり、複数年に渡って満足度は向上傾向にあり、学力向上の実感に結びついている。また教員の授業改善への意識も引き続きほぼ維持されている。 (2)進学指導重視の教育課程の編成・教育条件の整備について ○生徒 ・(中)学校の特色(コース制・中高一貫教育など)に満足している。(4.2→4.2) ・(高)学校の特色(コース制・類型別など)に満足している。(4.2→4.2) ○保護者 ・(中) 仰星高校の教育内容(コース制・類型別)をよく理解している。(4.0→4.1) ・(高) 学校の特色(コース制・類型別など)に満足している。(4.1→4.2) ○教職員 ・(中) 適正な教育課程や教育内容が生まれ、運用されている。英数特進(3.7→3.8)総合進学(3.7→3.7) ・(高) 適正な教育課程や教育内容が生まれ、運用されている。英数特進(3.6→3.7)総合進学(3.5→3.6) 【分析】教育課程、教育内容について中高ともに生徒、保護者の評価が安定している。また 2022 年度実施の新学習指導要領の改訂以降の、現状にあわせた継続的な再編に関して、評価が上昇したと思われる。 (3)東海大学、国公立・私立難関大学への進学実績の向上について ○生徒 ・(中) 東海大学について十分理解している。(3.4→3.6) ・(高) 進路に関する情報が十分に提供されている。(4.2→4.2) ○保護者 ・(中) 東海大学についての情報が十分に提供されている。(3.9→4.0) ・(高) 東海大学についての情報が十分に提供されている。(4.0→4.1) ○教職員 ・(中) 仰星高校への進学指導ができている。(4.3→4.3) ・(高) 生徒の適性に応じた進学指導ができている。 英数特進(3.8→4.0)総合進学(3.7→4.0) 【分析】生徒の適性に応じた進学指導と進路に関する情報提供が一定の水準で維持できていると考えられる。 (4)中高一貫体制の確立について ○教職員 ・本校では、中高一貫体制がうまく確立している。(中 3.3→2.9)(高 3.0→3.2) 【分析】昨年度、中高の評価結果に開きがあり、質問文の解釈が分散している可能性があるとの指摘があったため、客観的な評価結果となるよう今年度は質問文言を以下の通り増補・改訂した。 ・『本校では、「学習指導において」中高一貫体制がうまく確立している。』(中 2.9)(高 3.1) ・『本校では、「クラブ指導において」中高一貫体制がうまく確立している。』(中 3.8)(高 3.5) ・『本校では、「業務面において」中高一貫体制がうまく確立している。』(中 2.9)(高 3.1) ・『本校では、「人的交流において」中高一貫体制がうまく確立している。』(中 2.7)(高 3.4) 【分析】クラブ指導以外の面で、中高で意識の隔たりが大きい。長期的に取り組んでいく必要があると考えられる。 (5)自律的生活習慣の確立と学業と両立した高いレベル(水準)のスポーツ・文化活動の維持について ○生徒 ・(中) 学校の校風(学習とクラブの両立など)に満足している。(4.1→4.2) ・(高) 学校の校風(学習とクラブの両立など)に満足している。(3.9→4.1)	学校関係者との合同学校評価委員会での意見(令和6年3月8日実施) (1)学習指導における本質をつく授業の創造と一層の充実改善 学習に関するアンケート数値において複数年に渡って改善・向上しており、今後ともより一層の内容充実を期待するとの意見だった。 生徒の授業評価が比較的高い水準を維持している一方で、生徒の学力向上に関する保護者評価については、生徒の評価水準に近付きつつある。 生徒の学習に関する満足度が保護者にも共有されるよう、学校からの情報発信を今後も心掛けたい。 (2)進学指導重視の教育課程の編成・教育条件の整備 高校の教育内容においてコース間の時間割の統一や習熟度によるクラス編成など、新たな試みが定着してきた。生徒の活動に合わせた再編に対し、生徒・保護者の理解が深まった。 (3) ・東海大学および他大学への進学実績の向上については、情報提供が十分なされている。 ・東海大学については、コロナ禍で下降した生徒の理解度が回復しつつある。今後、三保研修・高校現代文明論の旅を再び万全の状態を進める中で、東海大学のスケールメリットを生かせる施策を模索していきたい。 (4)中高一貫教育体制の確立について ・「中高一貫体制」の質問について評価のばらつきが見られ、質問文の解釈が分散している可能性があるとの指摘に対し、今年度は質問文言を改訂した。項目を切り分けたことにより、課題を明確化することができた。今後はそれぞれの課題に長期的に取り組んでいく。

○保護者 ・(中) 学校の校風(学習とクラブの両立など)に満足している。(4.2→4.1) ・(高) 学校の校風(学習とクラブの両立など)に満足している。(4.1→4.2) ○教職員 ・(中) 生徒・保護者は、文武両道の校風をよく理解している。(4.0→4.1) ・(高) 生徒・保護者は、文武両道の校風をよく理解している。(4.0→4.0) 【分析】生徒・保護者・教職員とも本校が目指す「高いレベルの文武両道」の校風について、非常によく共有されている。 (5)SDGs の視点からのローカルコミュニティとの連携 ○生徒 ・(中) 地域と連携し、持続可能な開発およびライフスタイルについての学びに繋がる教育教育(総合的な学習の時間・SDGs・知的財産教育)が充実している。(4.3→4.2) ・(高) 持続可能な社会への学びに繋がる特色ある教育(SDGs教育・高校現代文明論など)が充実している。(4.1→4.1) ○教職員 ・(中) 地域と連携し、持続可能な開発およびライフスタイルに関する学びに繋がる総合的な学習(SDGs教育)の時間の内容が充実している。(4.2→4.1) ・(高) 本校では、持続可能な開発とライフスタイルに関する学びに繋がる SDGs教育・高校現代文明論などが生徒に理解されている。(3.5)※前年度と質問項目を切り分けたため、今年度数値のみ記載。 【分析】中等部において地域と連携した SDGsの取り組みが引き続き維持されている。高校の探究学習にも繋がる連携の充実が一層期待される。 (6)生徒募集事業と広報拡張のための各種事業の充実について ○保護者 ・(中) ホームページ(Gyosei 日記 含む)、広報誌「天の川」、学級通信等で学校の様子がよくわかる。(4.3→4.3) ・(高) ホームページ、広報誌「天の川」、学級通信等で学校の様子がよくわかる。(4.1→4.0) ○教職員 ・(中) 生徒募集の広報活動が上手く機能している。(3.7→3.1) ・(高) 生徒募集の広報活動が上手く機能している。(3.8→3.6) 【分析】ホームページやSNS等でのきめ細かい広報活動が保護者に高く評価されている一方、教職員間では広報活動の手応えが感じられにくい状況となっている。 (7)環境・安全・健康に配慮した学校づくりについて ○生徒 ・(中) 学校で、情報機器(パソコン・タブレット端末など)の利活用のための教育がおこなわれており、情報機器を活用している。(4.3→4.4) ・(高) 学校で、情報機器(パソコン・タブレット端末など)の利活用のための教育がおこなわれており、情報機器を活用している。(4.2→4.4) ○保護者 ・(中) 施設・設備等の教育環境に満足している。(3.4→3.4) ・(高) 施設・設備等の教育環境に満足している。(3.5→3.6) ○教職員 ・(中) 事故・事件・災害時の緊急連絡体制が確立されている。(4.0→4.1) ・(高) 事故・事件・災害時の緊急連絡体制が確立されている。(3.9→4.0) 【分析】教員の災害に対する意識が向上し、緊急連絡体制が確立されている。	(5)SDGs の視点からのローカルコミュニティとの連携について、引き続き生徒からの高評価を維持している。 中等部の地域連携の取り組みが 2023 年度博報賞ならびに ESD 大賞精励賞で評価受けて以降、深化を進めている。 高校では基礎探究・発展探究の二年間に亘る学習のほか、生徒の主体的な企画による研修旅行の実施など、生徒の満足度が安定して維持されている点が評価された。 (6)生徒募集事業と広報拡張のための各種事業の充実について、様々な媒体を用いた広報活動に定着している。近年 SNS 媒体に中高生の関心が偏る傾向があるが、この面で、更なる工夫が求められている。 (7)環境・安全・健康に配慮した学校づくりについて ・コロナ禍で進んだ環境整備が完全定着し、生徒の学習活動における ICT 活用が日常的なものになっている。 ・施設・設備等の教育環境については、改善が進んでいる。 ・緊急連絡体制についても評価が定着している。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

※中等部生徒による評価点(JSと略)保護者によるものをJP、高校生徒による評価点(SSと略)保護者によるものをSP、中等部教員による評価点(JTと略)、高校教員による評価点(STと略)。

※肯定的評価の基準は 3.5 以上とし、評点 3.2～3.7 は過去の評点の推移等を見て目標が達成されたかどうかを判断した。

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習指導の強化と改善	ア、公開授業・参観、研究授業等を活性化し、学校全体の授業力向上を図る。 イ、教材を精選し、進学情報リテラシー・キャリア教育の視点を取り入れ、ティーチングからラーニングへの学習の転換を図る。 ウ、探究授業の充実に向けて、他校訪問などを通じて研究を進め、校内の体制を整備する。 エ、高大接続改革に関する最新の情報を常に把握し、校内の対応を具体化する。特に大学入学共通テストに関して、生徒・保護者への情報の十分な提供を行うとともに、校内での指導の徹底を図る。 オ、ICTを活用した授業の充実を図るために、校外研修会への参加とフィードバック、学習会等の研修を実施し、授業改善に取り組む。また、生徒の情報モラルの醸成に努める。 カ、学園「英語力アップ委員会」の方針に基づき、学校を上げて英語教育に取り組む。英語教育には、一定の目標値(資格やスコア取得)を設けて達成する。また、大学教育との連続性も視野に入れて、授業や教授法についても検討する。 キ、大学入学共通テストにおける新傾向の問題を十分に研究し、思考力・判断力・表現力を養成するため低学年次からの指導に反映する。	ア、教員相互の授業公開・研究授業・授業見学を通じて教科専門的指導力を高める。生徒による授業評価を年 2 回実施する。第 1 回の授業評価に基づき授業改善策を教科会議で検討する。改善策の効果を第 2 回の授業評価で検証する。 イ、アクティブ・ラーニング、アダプティブ・ラーニング、ブレンディッド・ラーニングの具体的導入方法を検討する。同時に必要な教員研修を企画し、授業改善に繋げ、教育力の向上を図る。 ウ、2022 年度より実施している探究授業について探究科を中心として作成した本校独自の教科書を基にシラバス等の検証を行う。 エ、外部セミナーや他校の状況を参考に十分な情報を収集し、2023 年度よりの新教育課程を遺漏なく行う。高等学校新学習指導要領における教科指導のあり方を研究し、2023 年度よりの授業のあり方を教科全体で共有する。 オ、ICT 教育環境の整備に合わせ、視覚等に訴え、臨場感ある生徒参加型の授業(アクティブラーニング)を軸とする授業改善の研究と実践を進める。 カ、英語は 4 技能養成の方向性は維持し特にスピーキングとライティングの技能を伸ばすための創意工夫を行い、GTECでその効果を検証する。また、学力に見合ったレベルの授業を提供できるように、必要に応じて習熟度授業を実施する。実施に当たってはその効果の検証、修正を行い、より効果的なありかたを検討する。 キ、各教科において定期試験・共通実力テストのレベルと妥当性を検討するとともに、外部模試の出題・誤答分析を行い、授業に還元する。	ア、授業への工夫についての評価点は JT3.9、ST4.0 であった。 学力の定着についての評価点は、JS: 4.1、JP:3.6、SS:4.0、SP:3.5 であった。 イ、授業の満足度についての生徒による評価点は JS:4.2、SS:4.0、教材研究についての教員による評価点は JT:4.2、ST:4.1 であった。 ウ、特色ある教育について生徒による評価点は JS:4.2、SS:4.1 であった。 エ、進路に関する情報の提供については SS:4.2、SP:4.0 であった。 オ、ICTの学習への有効活用に関する評価点は JS:4.4、SS:4.4、JT: 4.0、ST: 4.1 であった。 情報モラルに関する生徒の評価点は、JS:4.5、SS:4.5、情報モラル指導に関する教員の評価点は JT:4.4、ST:4.0 であった。	ア、授業への工夫に対しての教員の評価は、概ね良好である。学力定着については例年生徒と保護者の評価に開きがあるが、理解の共有ならびに学力に関する客観的な評価の向上を目指し、尚一層の努力を続けたい。 イ、授業への生徒の満足度は引き続き向上している。教材研究に関して教員の評価点は微増となった。働き方改革を含め、教材研究に向ける時間的・精神的余裕を今後も重視していく。 また授業力向上のため、他教科間での授業見学を推進し、別視点での意見交換による授業力の向上が図られた。 ウ、高校 1・2 学年で探究学習の取り組みが進んでいる。また学習 PDCA サイクル定着のため、中高ともに「Gyosei 手帳」の利活用を促進するため、意識を喚起する取り組みを図っていく。 オ、ICT の活用については、通常授業のほか、生徒との情報共有など定着している。情報管理室を中心に環境整備も進められ、円滑な授業展開に寄与している。 一方、情報モラル遵守の意識は生徒に定着しているものの、その運用と指導に際しては中高問わず一層高いモラルを維持していく必要がある。

2 進学実績の伸長	ア、授業改善と生徒一人ひとりのレベルに合った授業の展開を通じて、生徒の学力伸長を図り、進路実績の向上へと繋げる。 イ、東海大学への進学者の増加を図るため、早い段階から教育の連続性を見据えた接続教育の取り組みを実施する。大学の特徴や良さを理解させ、各学部への入学を見越した進学指導を行う。 ウ、大学の入試情報を正確迅速に把握し、教員及び生徒に伝達できる仕組みを整える。また、大学入学共通テスト、国公立大学二次試験及び難関私立大学入試に対応した組織的かつ計画的な進学指導を実施する。	ア、自己探求ノートを活用し、PDCAサイクルに基づく学習指導を通じた確かな学力の向上、ルーブリックを活用した学校生活の質的向上、生徒主導による3者面談の実施を通じた自己管理能力の向上等を図る。全学年において外部模試の結果を定期的に分析し、職員会議で周知する。その上で改善を要する点を各教科に発信するなど、PDCAサイクルに乗せて指導の適正化を図る。また、各教科においては模試結果の分析を詳細に行い、入試に対応できる学力向上のための指導に繋げる。 イ、東海大学の体験学習の参加や、大学各学部からの講師招聘を通じて、生徒の関心を高める適正な情報の提供を行う。また、教職員に対しても東海大学理解のための研修会・勉強会を実施する。 ウ、進路指導部主導で各学期に1～2回の悉皆による学年進路検討会を行うとともに、入試制度の変更点、大学の新設などの進路関係情報の共有を図る。英数特進コース・総合進学コース両方について、定期的に教科担当者会議を実施し、生徒一人ひとりの学力状況・進路希望等の共有を通じて、チームとして進路指導を行う。	ア、 (中) Gyosei 手帳(高) 自己探求ノートの有効活用についての評価点は、JS:3.6、SS:3.5 であった。 イ、東海大学についての情報提供に関する評価点は、JS:3.6、SS:3.8、JT:3.4、ST:3.7 であった。 ウ、進路に関する情報提供についての評価点は、JS:3.9、SS:4.2、JT:4.3、ST:4.0 であった。	ア、中高とも「Gyosei 手帳」を自己管理能力の向上に活用するため、3者面談をはじめ、日常的な利用場面を提起している。 生徒のより主体的な活用につながるよう、手帳レイアウトをはじめ活用に関する指導法や活用事例の共有を進めていく。 イ、東海大学への関心を深める重要な機会に、中1「三保研修」高1「現代文明論の旅」があるが、全国各地に点在する学園施設を訪れる機会を、中高共にできるだけ増やすなど、新たな形を模索している。 直接訪問は生徒の認知度を高める機会として一定の効果期待できるため、引き続き訪問を機に適切な形で指導が充実するよう、教育内容・方法の精査に努める。
3 高いレベルのスポーツ・文化活動の維持	ア、クラブ活動、学校行事等の意義を十分踏まえ、予算・施設の効率的な活用、人的措置等を考慮するとともに、学業と両立しながら活動の活性化を図る。 イ、文化的な活動の振興に努め、外部への積極的発信と星河祭の質的向上を図る。	ア、進学校としてのスクールアイデンティティを確立するべく、生徒の自己管理能力を育成し文武両道であるという意識を醸成する。学習との両立に向け、顧問は生徒の成績を常に把握し、時間の有効利用を指導する。また自学自習時間確保のため、短時間による効果的な活動内容の検討、及び週1回クラブ活動停止日を必ず設ける事の周知を図る。 イ、全ての学力の基礎となる読解力・表現力を養うため、朝読書を通じて生徒が読書に積極的に取り組む姿勢を育てる。	アイ、学校の校風(学習とクラブの両立など)に関する評価点は JT:4.1、ST:4.0、JS:4.2、JP:4.1、SS:4.1、SP:4.2 であった。 クラブ活動に関する評価点は JT:4.7、ST:4.8、JS:4.6、JP:4.3、SS:4.4、SP:4.2 であった。 星河祭等の行事に関する評価点は、 JS:4.6、SS:4.3 であった。 読書活動に関する評価点は、 JS:4.0、SS:3.7 であった。	ア、勉強と部活動の両立を目指す校風のもと、挨拶や掃除など、基本的生活習慣が身についている生徒が多く、それが学校全体に良い影響を与えている。生徒、保護者、教員ともにその意識と自負が高いことも特徴に挙げられる。 イ、コロナ禍を経て星河祭のあり方が文化的な方向に整理され、各種の企画が展開された。 生徒の満足度もコロナ禍以前の評価水準を上回った。 読書活動に関してはメディアセンター室を中心に、読書促進のための啓蒙活動・行事の導入と改善が進んでいる。

4 SDGs の視点からの ローカルコミュニティとの連携	ア、生徒会・GAFSS を中心として、地域の持続可能な活動を支援するために積極的にボランティア等に参加し、学校内で SDGs の達成に向けてリーダーシップをもって行動できる生徒を育てる。	ア、生徒会活動においては、目的や目標を明確にして年間計画を立てる。また、委員会活動も含め、学校行事への協力や校内外の活動により主体的で積極的な活動の推進を図る。特に、生徒会執行部が中心となり、GAFSS を通して、SDGsに積極的に関わる運動を企画運営していく。	ア、特色ある教育 SDGsに対する評価点は、JT:4.2、JS:4.1 であった。 生徒会・GAFSS がエコキャップ運動などを通じて、学校内にとどまらず、地域との連携を図るように活動を始めている。また中等部においては、枚方の街作りについてフィールドワークを行い、地元商業関係者を招いての生徒プレゼンテーションを行うなど、充実した活動が展開されている。	ア、中等部での SDGs学習の取り組みは年度を重ねるごとに充実し、2023 年度は博報賞・ESD 大賞精励賞の二賞受賞につながった。 高校での探究授業へと有機的に連携していくことが今後の活動の広がりとして期待される。
5 生徒募集事業と広報拡張のための各種事業の充実	ア、入試イベント・小中学校訪問活動の充実、塾・予備校などの各種学校への情報の発信方法の改善、塾・予備校、近隣地域小中学校と十分な連携をとる。 イ、入学者選抜結果の分析・入学者の追跡調査を踏まえ、組織的に入学者選抜方法の工夫改善に努める。 ウ、学校ホームページ、学校通信などにおいてよりの確かな情報発信に努め、組織的な広報活動を充実させる。 エ、保護者や小中学生を対象とした公開授業、中学生の体験授業を実施する。 オ、中等部受験者確保のため、塾訪問のあり方を見直し、全教員によるより積極的な募集活動を展開する。	アイ、本校の存在意義(ミッション)、学校運営方針、教育活動の現状等を内外に周知するため、学校見学会や説明会の計画的実施を見直し、外部情報媒体、学校ホームページにそれらを掲載する。PR室と各分掌が連携して体験授業(オープンスクール)や本校問題解説会を充実させ、小・中学生が期待する学習内容・方法等を発信する。 ウ、東海大学付属である本校の特色を速かつ正確に伝えられるよう、ホームページ上で常に新しい情報を提供する。また、外部の主催する学校説明会や交流活動に組織的に取り組む。 エ、夏期休業期間等を利用した教員・生徒による出身中学校訪問、及び近隣小・中学校への出張授業やボランティア活動を検討する。 オ、学業及びスポーツ奨学生制度を有効活用する。また小中学生向けのスポーツ教室等の開催を検討する。	アイ、生徒募集の広報活動に対する評価点は JT:3.1、ST:3.6 であった。 ウ、ホームページ等に関する評価点は JP:4.3、SP:4.0 であった。 エ、地域との連携(クラブ活動での連携も含む)に関する評価点は、JT:3.7、ST:3.7 であった。	ア、少子化の中、オープンスクール・入試説明会等を盛況のうちに実施することができた。またイブニング説明会など、多角的な募集活動を展開した。 ウ、ホームページ、SNS、広報誌「天の川」、学級通信等の情報発信内容についての満足度が高く、本校の特色を十分にアピールできていると考える。 エ、オ、クラブ活動を通じた地域連携に関しては、地域からのニーズもあり、今後とも拡充していきたい。
6 環境・安全・健康に配慮した学校づくり	ア、同窓会・後援会組織と連携して、学校外の自然と調和・共生できる学校環境づくりを目指す。生徒・教職員・保護者・地域住民等との協働により、その維持を図る。 イ、防災・防犯、健康づくりに対する行動計画を策定し、実施状況の点検・評価(学校評価)を行う。 ウ、教育活動における事故を未然に防ぐために細心の注意を払う。万一事故が発生した場合は、文科省「学校事故対応に関する指針」に基づき、適切に対応する。 エ、教職員と生徒との間のコミュニケーションを密にし、カウンセラーなど関係機関との連携を図り、安心して学校生活が送れるようにする。 オ、教職員の健康に留意した学校づくりを目指す。	ア、本校花壇の維持、校内緑化等の整備維持計画を立て実践する。さらに、校内の環境維持活動を全校的に行う。 イ・ウ、地震・洪水など自然災害などを想定した防災災害対策安全管理マニュアルを作成するため、有事の際の避難運営など環境計画を策定し、内容についての周知、安全教育に努める。また防災防犯計画・学校保健計画を策定し、その実施状況を外部評価(学校評価)で点検する。 エ、生徒の精神的な安定のため、カウンセラーと連携を密にし、教育相談機能を充実させる。 オ、2022 年度より本格実施した一年単位の変形労働時間制のより効果的な運用に努める。業務削減による長時間労働の改善を図るため、教職員からの意見を精査の上、業務改善・効率化につながる見直しを行い、具体案を提案する。	イウ、「事故・事件・災害時の緊急連絡体制が確立されている」に対する今年度の評価点は JT:4.1、ST:4.0 であった。 また、「保護者との連携」項目に対する評価点は、JT:3.8、ST:3.8 であった。 エ、スクールカウンセリングの体制に対する評価点は、JT:4.1、ST:3.9 であった。	イ、避難訓練等で防災意識をさらに高める。 ウ、保護者の協力を得て、家庭と学校で生徒の成長をサポートする体制が確立されている。 エ、配慮を要する生徒対応が増しているが、指導上の専門的な知見が得られる教育相談体制が確立されている。 オ、「働き方改革実行委員会」を中心として今後検討を進めていく。